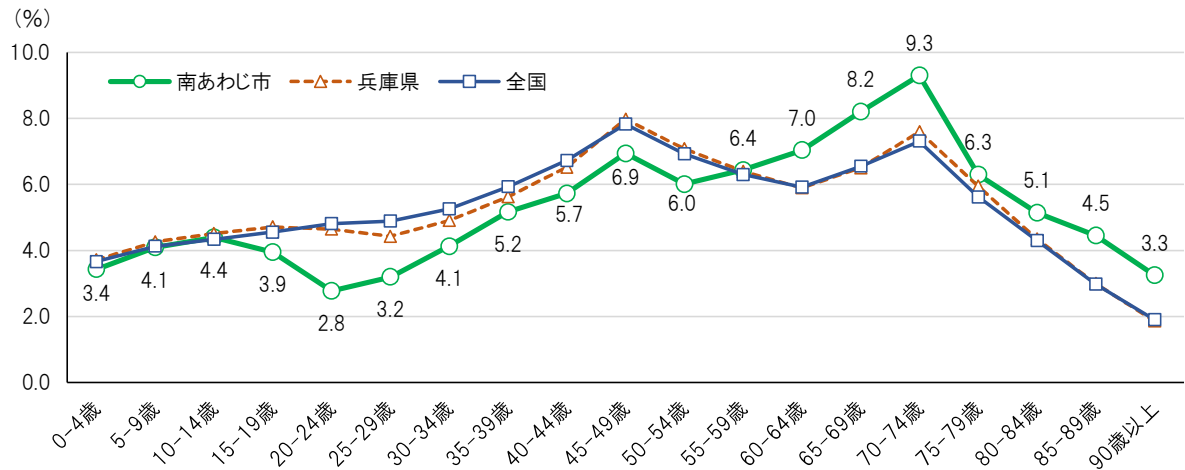


(7) 年齢別人口構造

年齢別人口（5歳区分）の割合をみると、10歳代後半から50歳代前半の人口割合が兵庫県・全国と比較して低くなっている一方、60歳代以上のすべての区分で兵庫県・全国より高くなっています。

■図13 【令和2年（2020年）】年齢別人口（5歳区分）割合の比較（兵庫県・全国との比較）



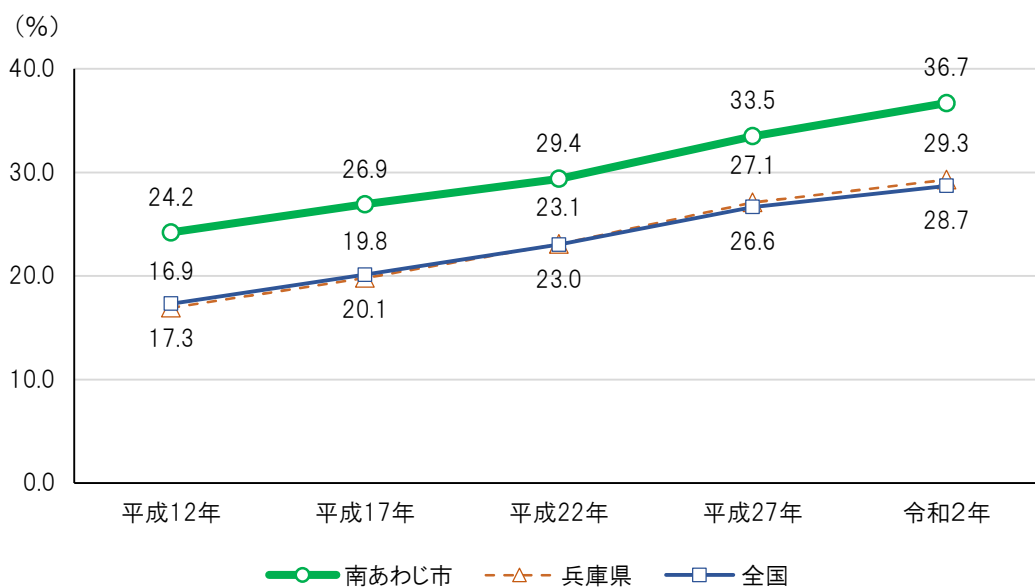
※「不詳」を含む総数で割合を算出。

資料：国勢調査

(8) 高齢化率

高齢化率をみると、兵庫県・全国より高い水準で推移しており、令和2年には36.7%となっています。

■図14 高齢化率の推移（兵庫県・全国との比較）



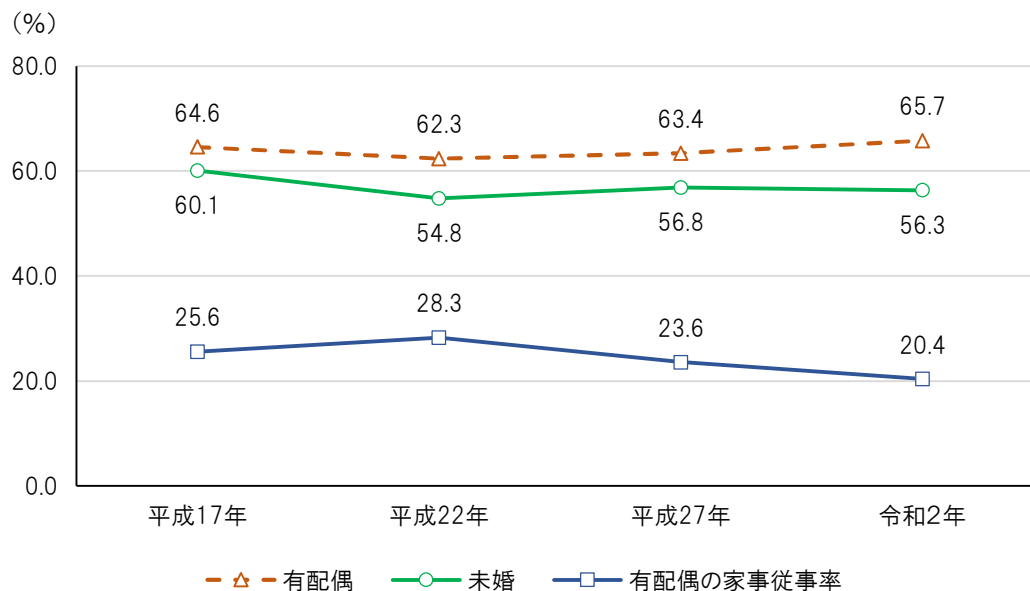
※総数には「不詳」を含めずに割合を算出。

資料：国勢調査

(17) 女性の婚姻状況別就業率

女性の就業率をみると、有配偶の就業率と未婚の就業率について、兵庫県を上回っています。また、有配偶の家事従事率をみると、南あわじ市、兵庫県ともに低下傾向にあり、南あわじ市は兵庫県を下回っています。

■図 29 女性の就業率の推移（南あわじ市）

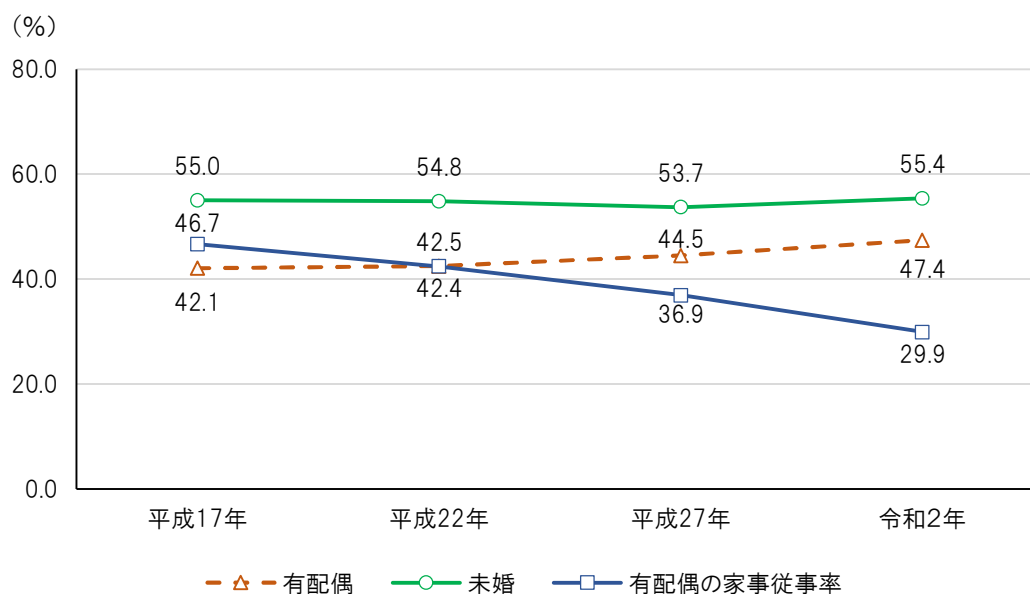


※就業率は有配偶と未婚のそれぞれの総数で就業者数を割った割合。

※家事従事率は非労働力人口のうちの家事従事者を有配偶の総数で割った割合。

資料：国勢調査

■図 30 女性の就業率の推移（兵庫県）



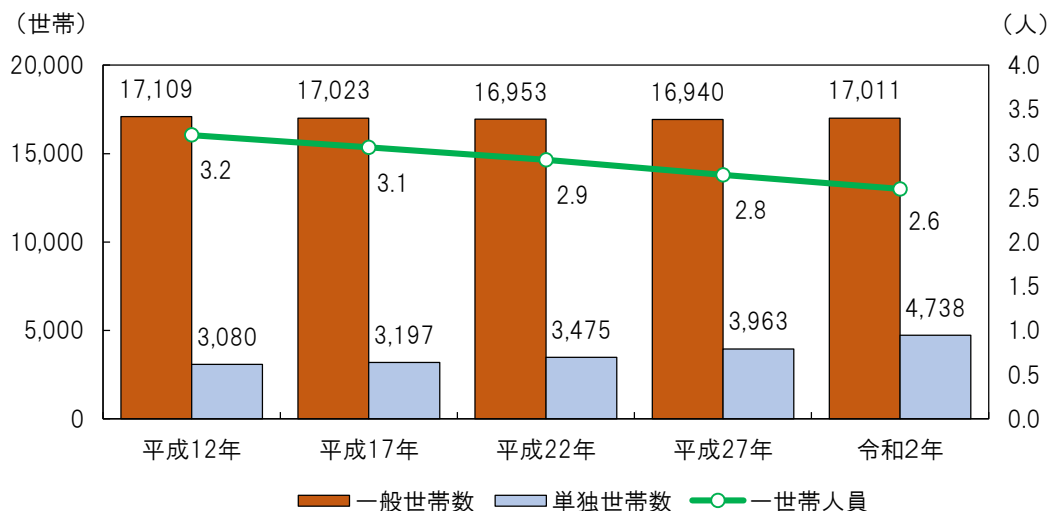
資料：国勢調査

2. 世帯の状況

(10) 単独世帯数と一世帯あたりの人員

一般世帯数が横ばい傾向にある中で、単独世帯数の推移をみると、平成12年以降増加を続けており、令和2年には4,738世帯となっています。また、一世帯あたりの人員は減少傾向で推移しています。

■図16 一般世帯数・単独世帯数と一世帯あたりの人員の推移（南あわじ市）



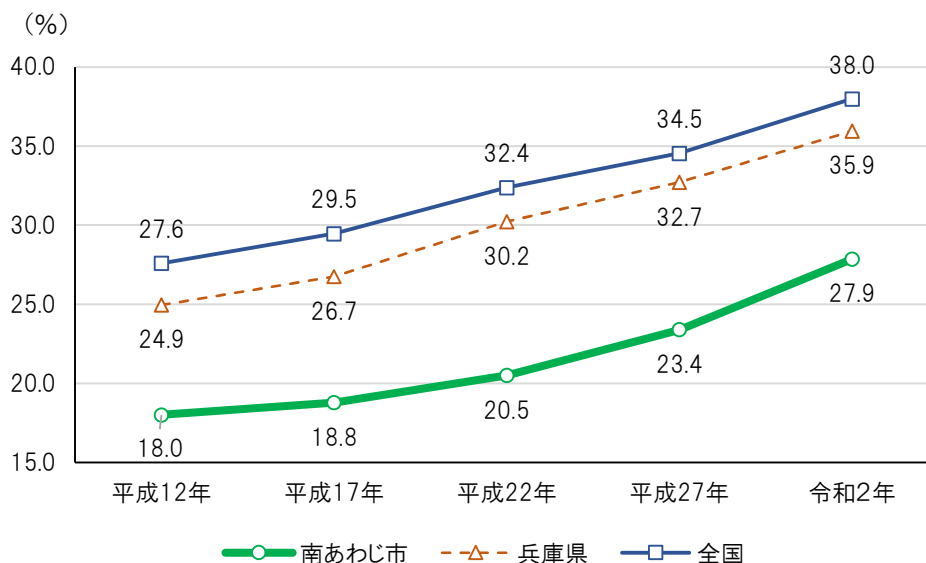
※総数には「不詳」を含めずに割合を算出。

※一般世帯数は、施設（寮・寄宿舍、病院・療養所、社会施設、自衛隊の営舎・艦船、矯正施設）等世帯以外を除く、単独世帯、核家族世帯、その他の世帯の総数。

資料：国勢調査

単独世帯が一般世帯総数に占める割合をみると、兵庫県・全国より低い水準で推移しているものの、平成12年以降上昇を続けており、令和2年には27.9%となっています。

■図17 一般世帯数に占める単独世帯数の割合の推移（兵庫県・全国との比較）



※一般世帯数は、「学校の寮・寄宿舍、病院・療養所、社会施設、自衛隊の営舎・艦船」等の施設等世帯を除く、住居と家計をとともにしている人の集まり又は一戸を構えて住んでいる単身者の総数。

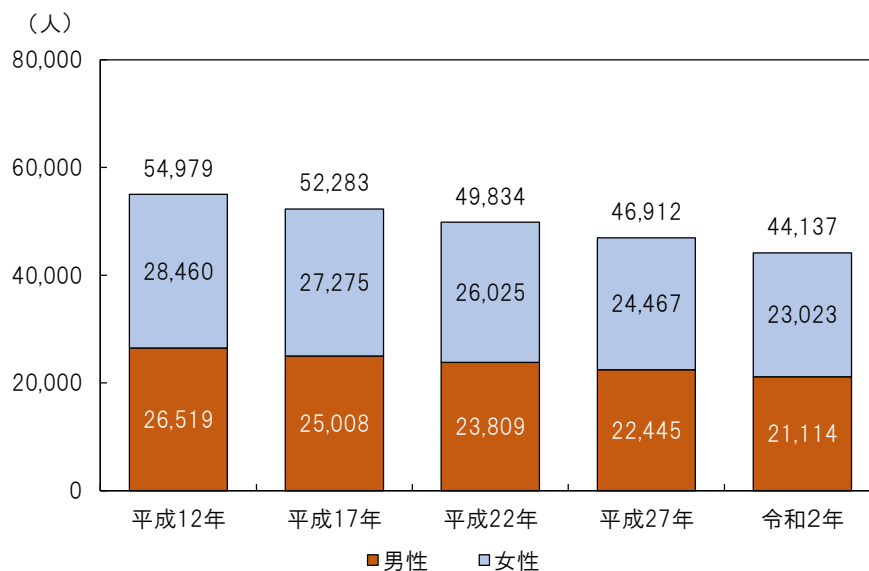
資料：国勢調査

1. 人口の動向

(1) 人口

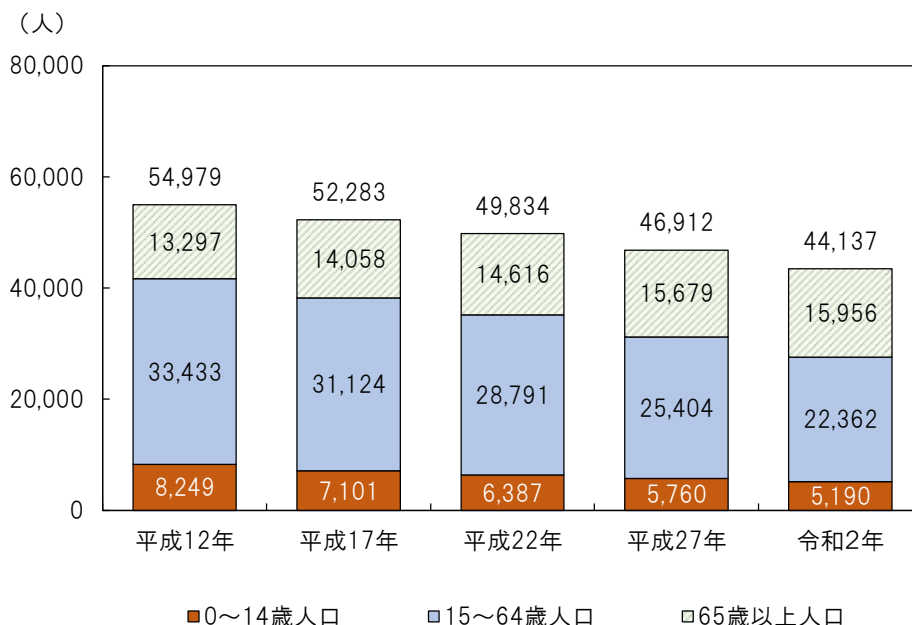
男女別人口の推移をみると、男女ともに減少を続けており、令和2年には44,137人となっています。また、年齢3区分別にみると、0～14歳人口、15～64歳人口が減少している一方、65歳以上人口は増加しています。

■図1 男女別人口の推移（南あわじ市）



資料：国勢調査

■図2 年齢3区分別人口の推移（南あわじ市）



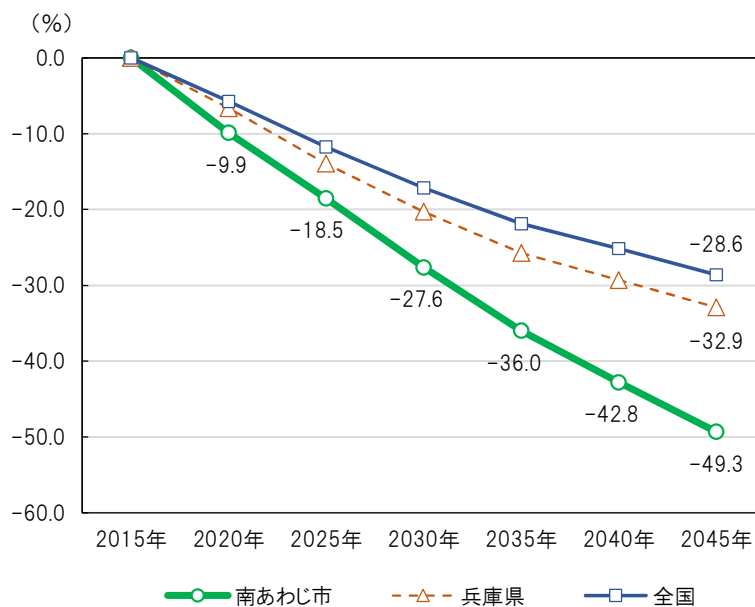
※総数は「不詳」を含むため、各年齢区分の人口の合計は異なる。

資料：国勢調査

(5) 各年齢層の増減率の推計

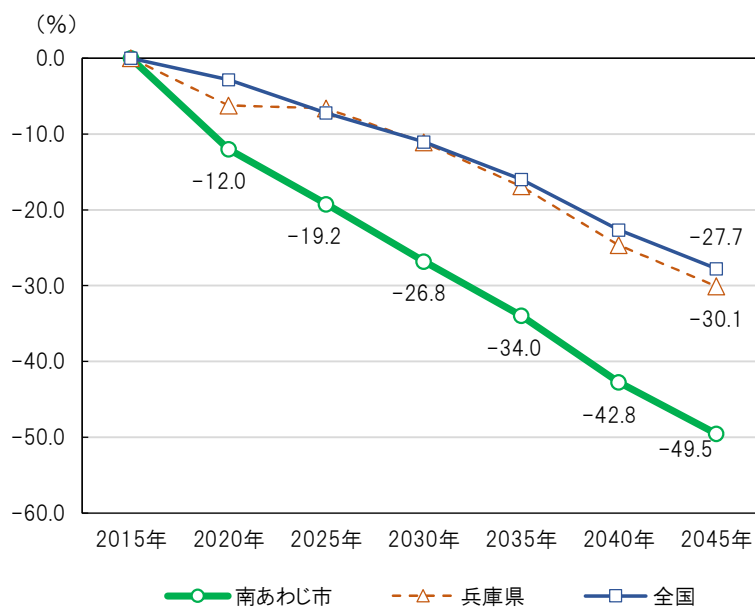
各年齢層の減少率の比較をみると、0～14 歳、15～64 歳人口の減少率は兵庫県・全国より高い水準で推移し、2045 年には 0～14 歳人口の減少率は-49.3%、15～64 歳人口の減少率は-49.5%となることが予測されます。

■図7 0～14 歳人口の減少率の比較（兵庫県・全国との比較）



資料：国立社会保障・人口問題研究所（平成 30 年推計）

■図8 15～64 歳人口の減少率の比較（兵庫県・全国との比較）



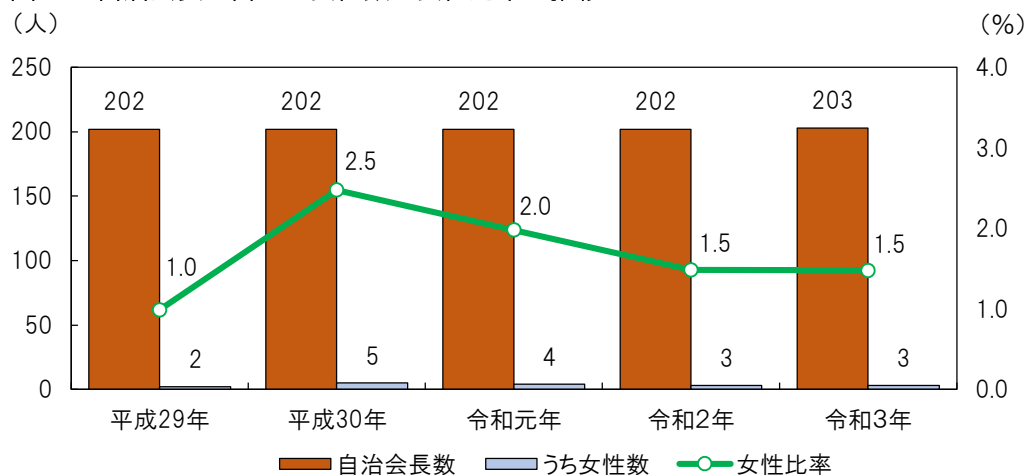
資料：国立社会保障・人口問題研究所（平成 30 年推計）

7. 地域における男女共同参画の状況

(27) 自治会長における女性数・女性比率

自治会長における女性数・女性比率の推移をみると、女性数が少ない状態が続いており、平成30年の2.5%以降、低下傾向となっています。

■図40 自治会長に占める女性数・女性比率の推移



資料：南あわじ市

(28) 地域団体等における女性役員・委員

地域団体等における女性役員・委員の割合は令和元年に低下したものの、令和4年には20.9%と、過去6年間で最も高い割合となっています。

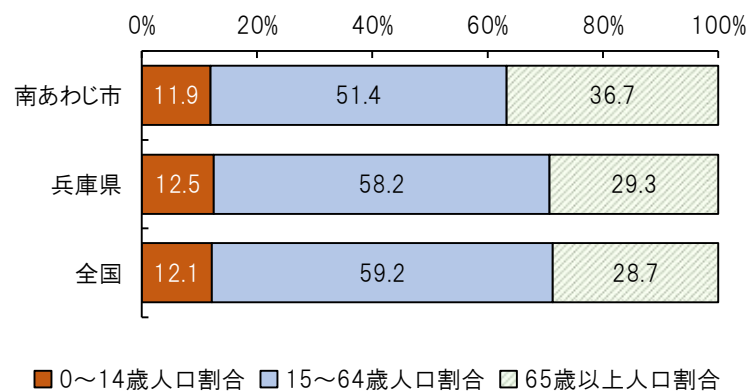
■表7 地域づくり協議会役員・委員に占める女性割合の推移（南あわじ市）

	役員・委員数	うち女性	女性割合
平成29年 (2017年)	514人	94人	18.3%
平成30年 (2018年)	550人	113人	20.6%
令和元年 (2019年)	560人	114人	20.4%
令和2年 (2020年)	557人	108人	19.4%
令和3年 (2021年)	576人	113人	19.6%
令和4年 (2022年)	579人	121人	20.9%

資料：南あわじ市

年齢3区分別人口割合の推移をみると、令和2年の65歳以上人口割合は、兵庫県・全国を大きく上回り、36.7%となっています。

■図3 【令和2年（2020年）】年齢3区分別人口割合（兵庫県・全国との比較）



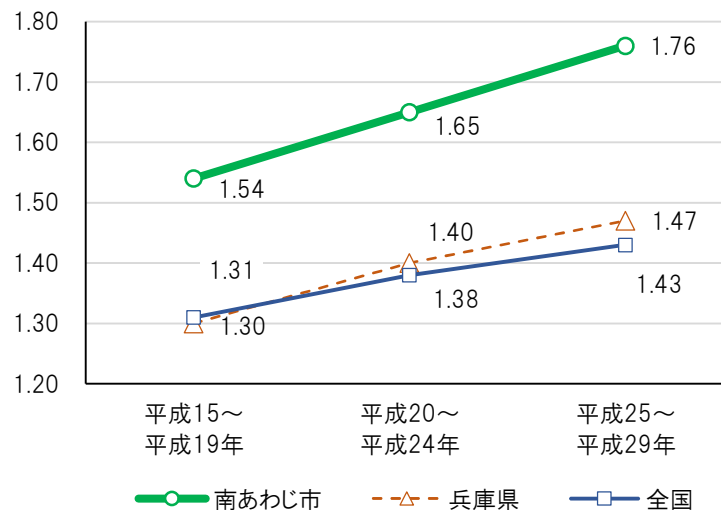
※総数には「不詳」を含めずに割合を算出。

資料：国勢調査

（2）合計特殊出生率

合計特殊出生率をみると、兵庫県・全国より高い水準で推移しており、平成25～29年には1.76となっています。

■図4 合計特殊出生率の推移（兵庫県・全国との比較）



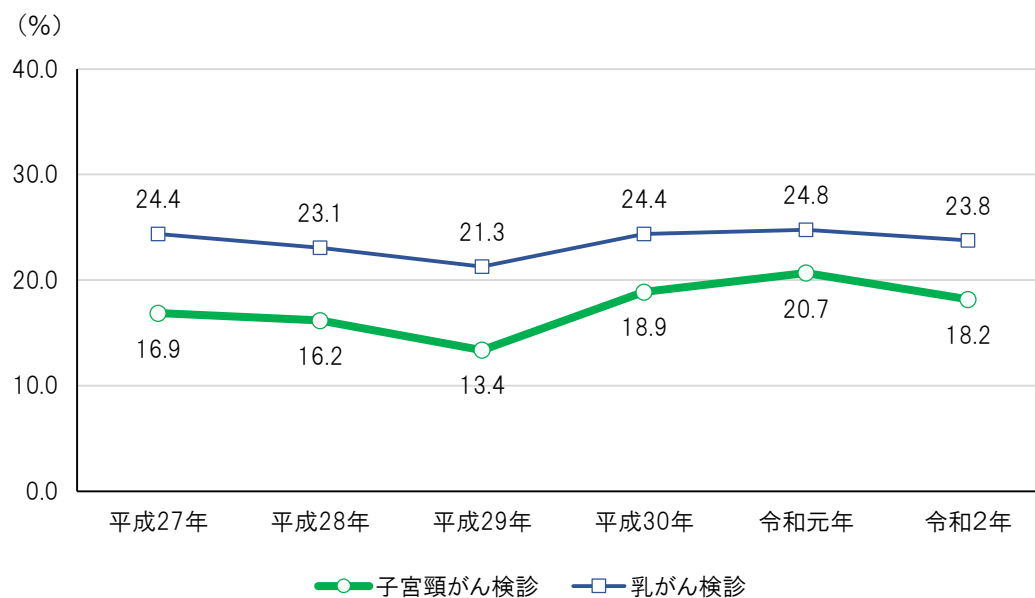
資料：人口動態保健所・市町村別統計

5. 女性の健康に関する状況

(22) 子宮頸がん検診、乳がん検診の割合

子宮頸がん、乳がん検診の割合をみると、平成 29 年で低下したものの、平成 30 年には上昇し、以降は横ばいに推移しています。

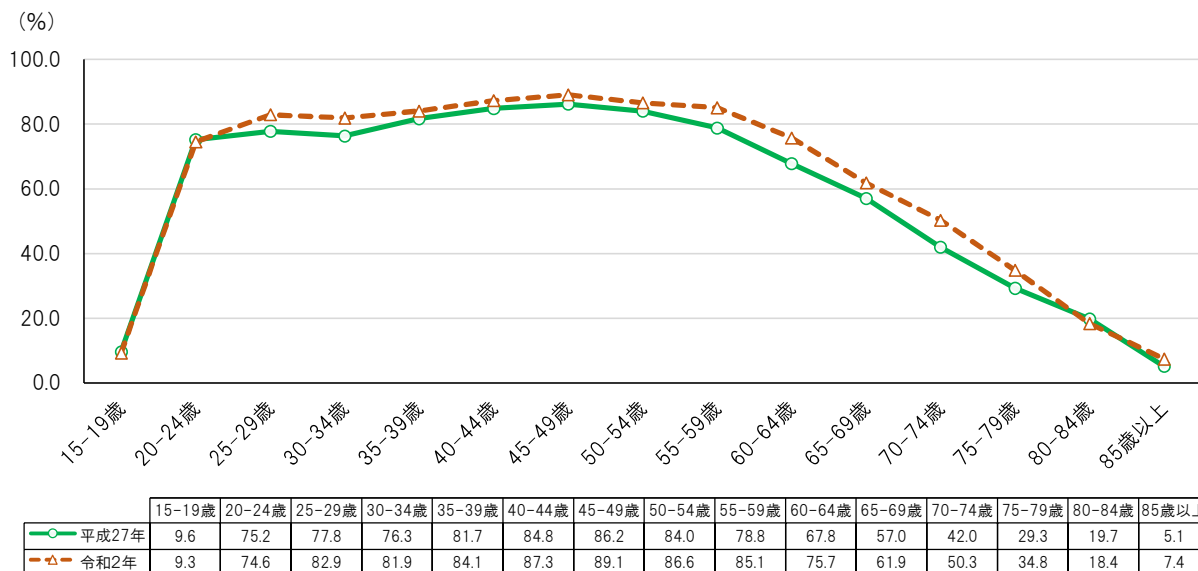
■図 36 子宮頸がん検診、乳がん検診の推移（南あわじ市）



資料：兵庫県市町のがん検診

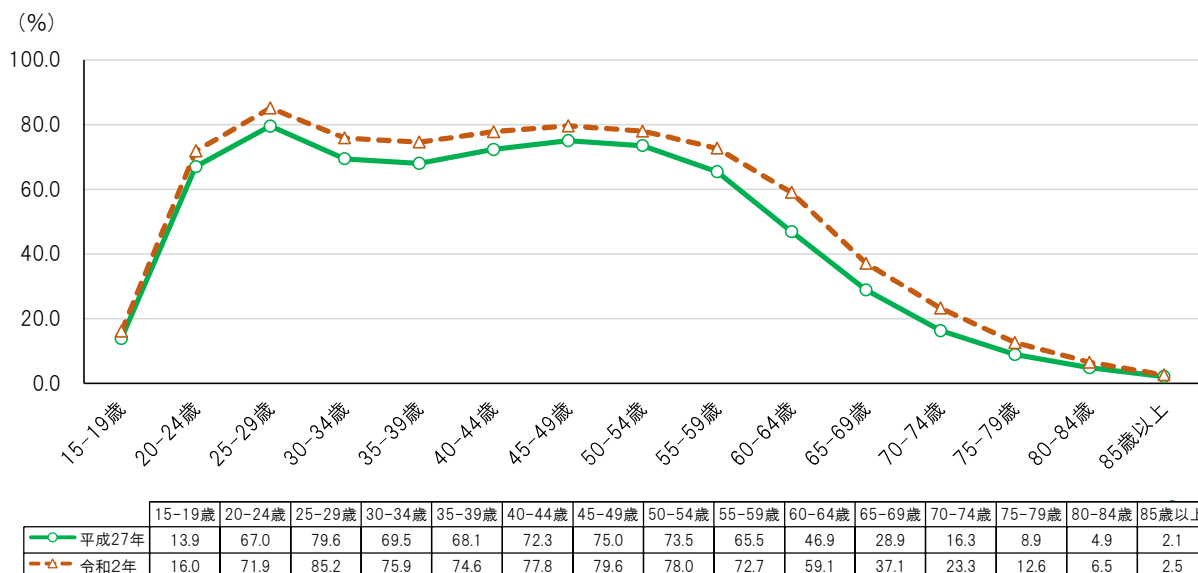
女性の年齢別労働力率をみると、15-19 歳、80-84 歳を除き、令和 2 年が平成 27 年を上回っています。兵庫県と比べて南あわじ市では出産や子育てを機に女性の就業率が低下する M 字カーブが緩やかになっています。

■図 27 女性の年齢別労働力率（南あわじ市）



資料：国勢調査

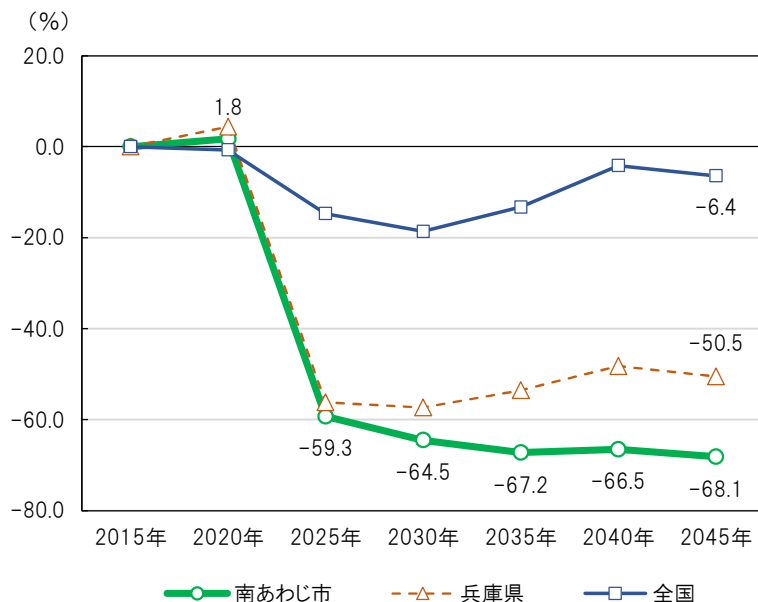
■図 28 女性の年齢別労働力率（兵庫県）



資料：国勢調査

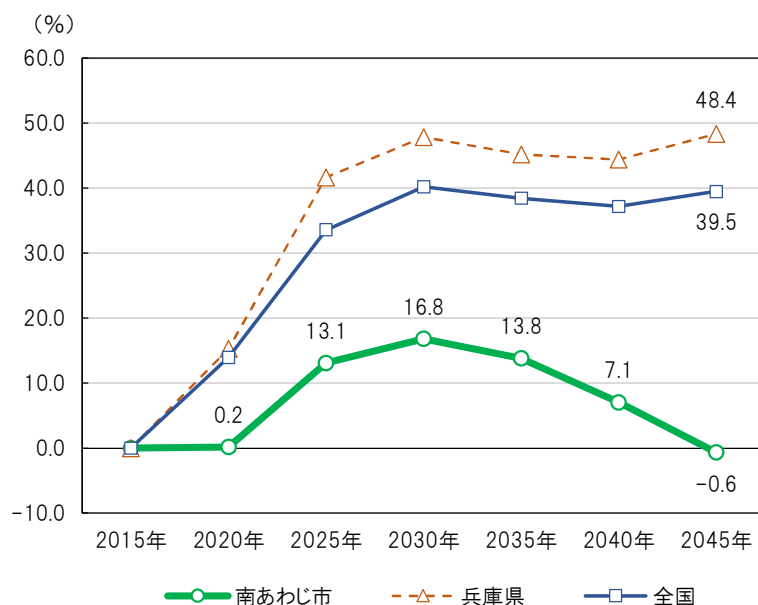
65～74 歳人口の増減率をみると、2025 年まではほぼ兵庫県と同じ水準で推移すると予測されていますが、2030 年以降の減少率は兵庫県・全国より高い水準で推移し、2045 年には -68.1%となることが予測されます。一方、75 歳以上人口の増加率は兵庫県・全国より低い水準で推移し、2045 年には-0.6%と減少に転じることが予測されます。

■図 9 65～74 歳人口の増減率の比較（兵庫県・全国との比較）



資料：国立社会保障・人口問題研究所（平成 30 年推計）

■図 10 75 歳以上人口の増減率の比較（兵庫県・全国との比較）

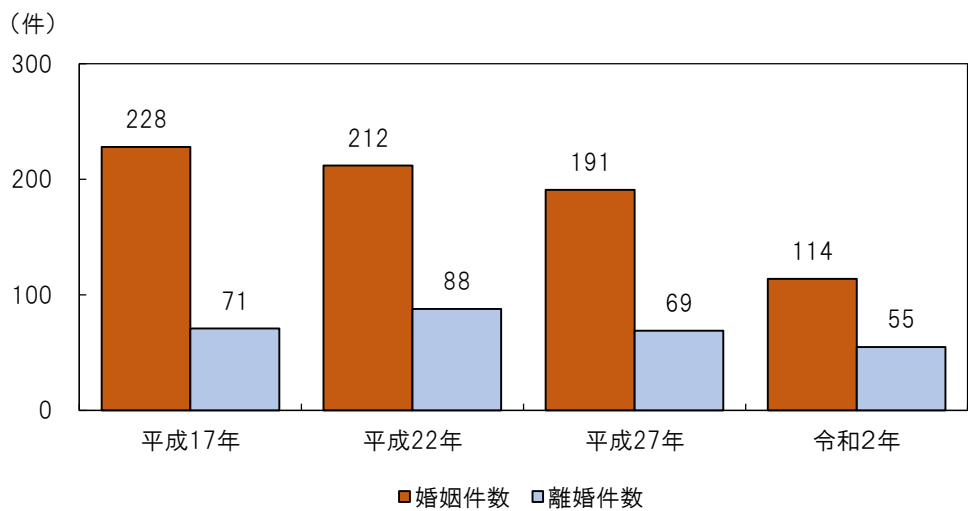


資料：国立社会保障・人口問題研究所（平成 30 年推計）

(15) 婚姻件数・離婚件数

婚姻件数と離婚件数をみると、平成 22 年以降いずれも減少傾向で推移しており、令和 2 年の婚姻数は 114 件と、平成 17 年の半数にまで減少しています。

■図 24 婚姻件数・離婚件数の推移（南あわじ市）



資料：人口動態統計

(29) 消防団における男女比

消防団における男女比をみると、令和4年では、平成29年と比べて、女性団員数・割合が高くなっています。

■表8 男女別消防団員数の推移（南あわじ市）

	平成29年 (2017年)		令和4年 (2022年)	
	男性	女性	男性	女性
人数	2,162人	17人	2,115人	26人
割合	99.2%	0.8%	98.8%	1.2%

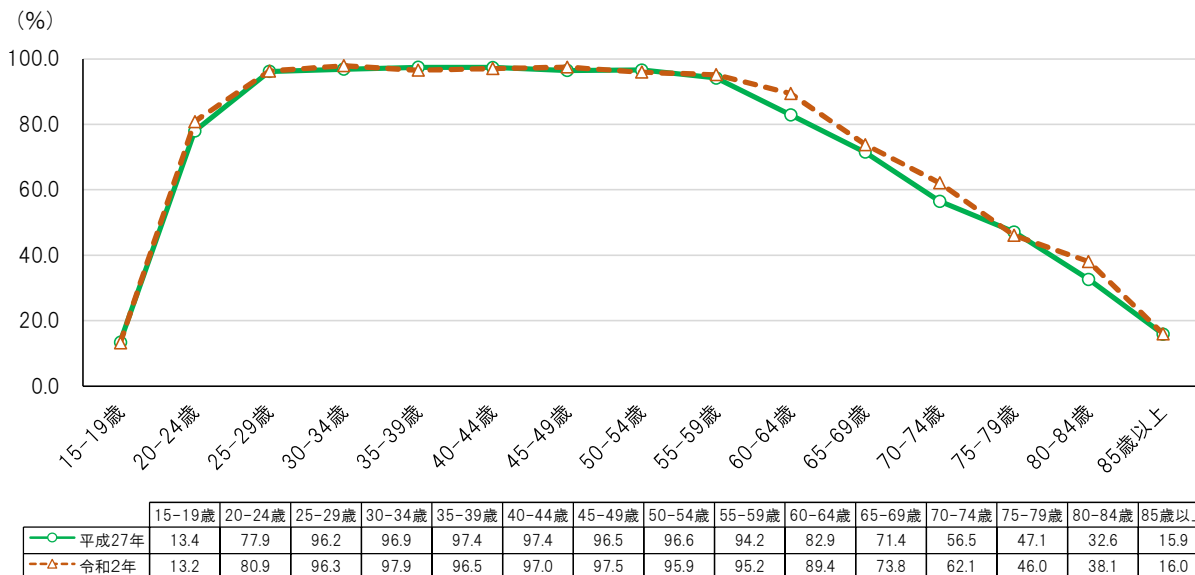
資料：南あわじ市

3. 労働の状況

(16) 年齢別労働力率の比較

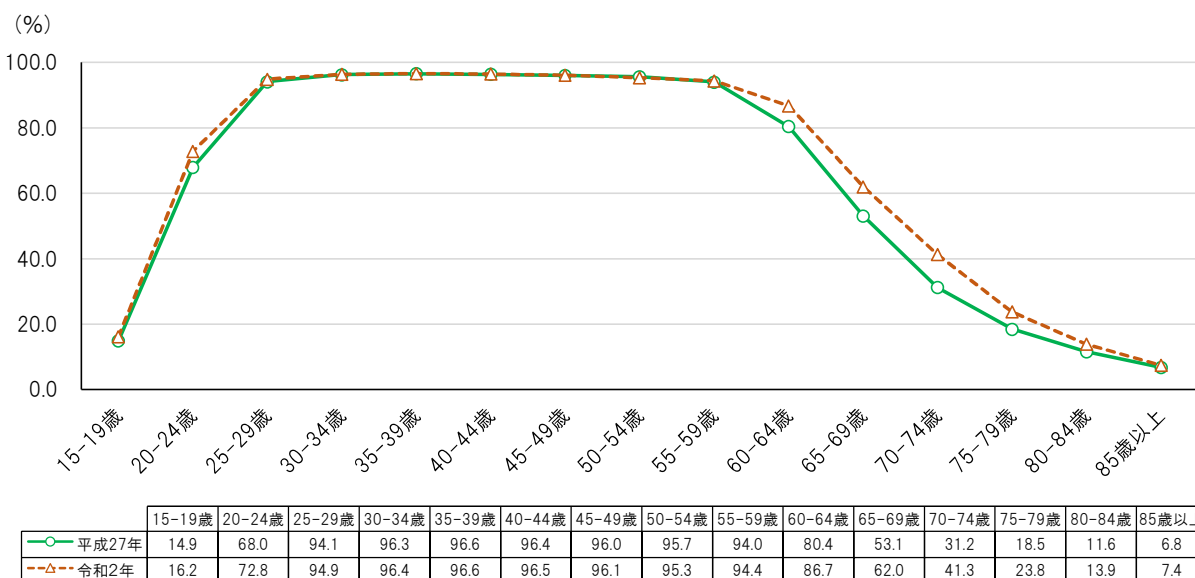
男性の年齢別労働力率をみると、令和2年では35-39歳を除き、南あわじ市が兵庫県を上回っています。65歳以上で南あわじ市と兵庫県との差が大きくなっています。

■図 25 男性の年齢別労働力率（南あわじ市）



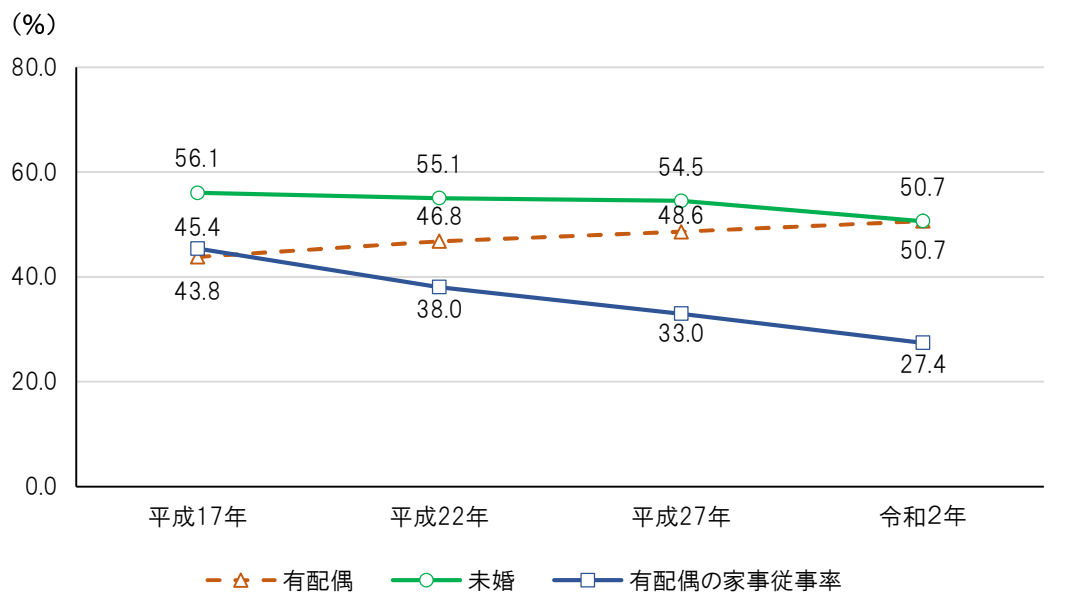
資料：国勢調査

■図 26 男性の年齢別労働力率（兵庫県）



資料：国勢調査

■図 31 女性の就業率の推移（全国）



資料：国勢調査

■表 3 女性の婚姻状況別就業状況の推移（兵庫県・全国との比較）

南あわじ市	未婚の就業率	有配偶の就業率	有配偶の家事従事率
平成 17 年 (2005 年)	60.1%	64.6%	25.6%
平成 22 年 (2010 年)	54.8%	62.3%	28.3%
平成 27 年 (2015 年)	56.8%	63.4%	23.6%
令和 2 年 (2020 年)	56.3%	65.7%	20.4%
兵庫県	未婚の就業率	有配偶の就業率	有配偶の家事従事率
平成 17 年 (2005 年)	55.0%	42.1%	46.7%
平成 22 年 (2010 年)	54.8%	42.5%	42.4%
平成 27 年 (2015 年)	53.7%	44.5%	36.9%
令和 2 年 (2020 年)	55.4%	47.4%	29.9%
全国	未婚の就業率	有配偶の就業率	有配偶の家事従事率
平成 17 年 (2005 年)	56.1%	43.8%	45.4%
平成 22 年 (2010 年)	55.1%	46.8%	38.0%
平成 27 年 (2015 年)	54.5%	48.6%	33.0%
令和 2 年 (2020 年)	50.7%	50.7%	27.4%

※有配偶の家事従事率は非労働力人口における家事従事者の割合。

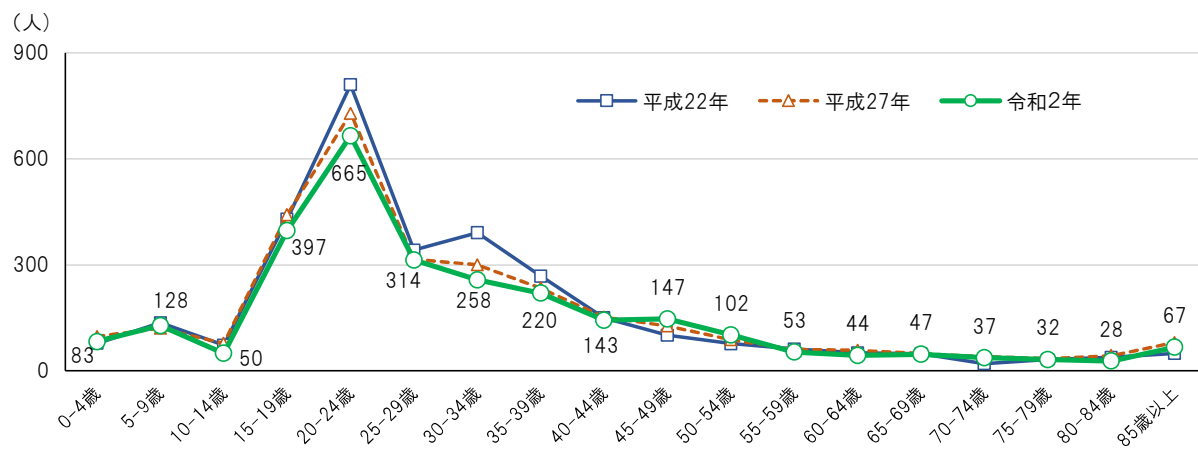
※未婚には死別・離別を含まない。

資料：国勢調査

(4) 転出者数

転出者数の推移をみると、いずれの年度も 20～24 歳が最も多く、次いで 15～19 歳が多くなっています。

■図6 年齢階級別転出者数の推移(南あわじ市)



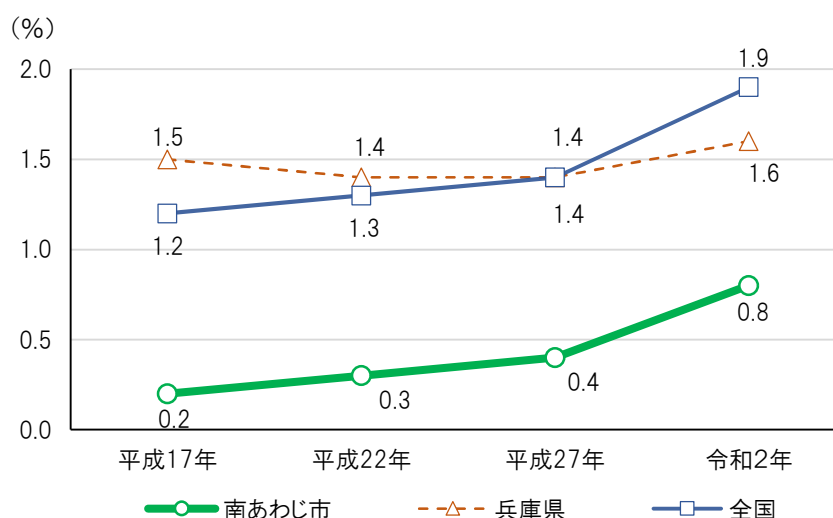
資料：国勢調査

(9) 外国人人口の割合

外国人人口が総人口に占める割合をみると、平成 27 年から令和 2 年にかけて上昇傾向が加速して、兵庫県・全国より低い水準で推移していますが、令和 2 年には 0.8% となっています。

平成 25 年に「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」が改正され、技能実習生が最長 5 年間に日本国内に滞在可能となったことや、令和元年に新たな在留資格である「特定技能」が創設されたことが、外国人人口の増加につながっていると考えられます。

■図 15 外国人人口割合の推移（兵庫県・全国との比較）



※ 3 か月以上日本に居住した外国人が調査対象。

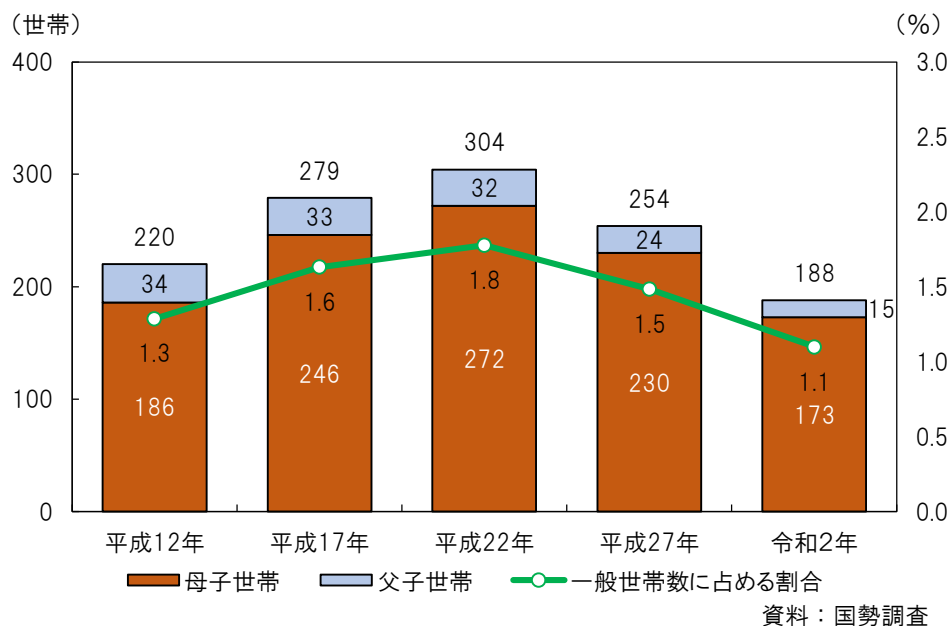
資料：国勢調査

■表 2 在留外国人数（特定技能・技能実習）の推移（兵庫県・全国との比較）

	平成 27 年 (2015 年)	平成 28 年 (2016 年)	平成 29 年 (2017 年)	平成 30 年 (2018 年)	令和元年 (2019 年)	令和 2 年 (2020 年)	令和 3 年 (2021 年)
南あわじ市					286 人	260 人	278 人
兵庫県	5,969 人	7,168 人	8,741 人	9,257 人	13,944 人	13,302 人	11,705 人
全国	192,655 人	228,588 人	274,233 人	285,776 人	412,593 人	393,863 人	325,789 人

資料：在留外国人統計

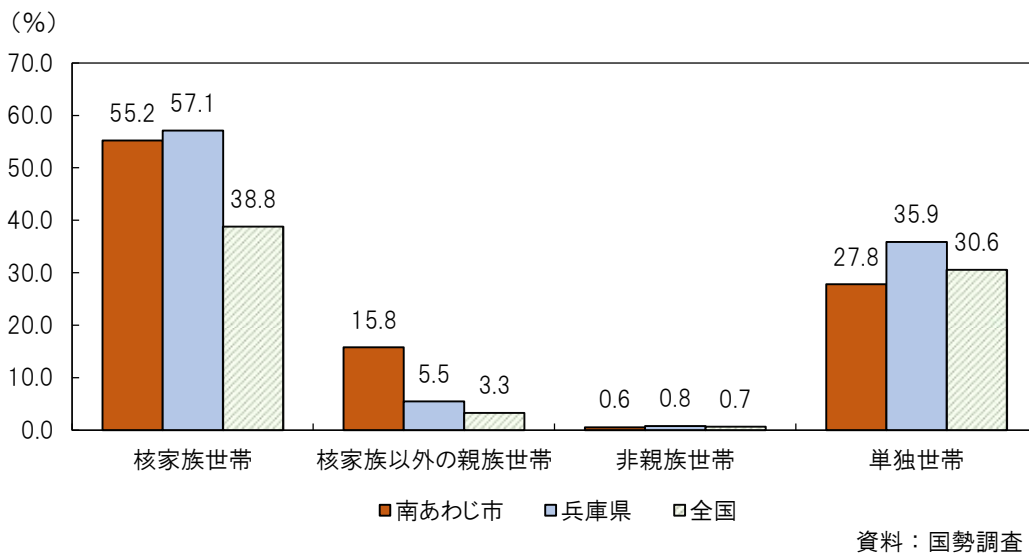
■図 20 母子世帯・父子世帯数の推移（南あわじ市）



（13）世帯の家族類型の割合

世帯の家族類型の割合をみると、核家族以外の親族世帯は兵庫県・全国と比較すると最も高く、非親族世帯と単独世帯の割合は最も低くなっています。

■図 21 【令和2年（2020年）】世帯の家族類型比較（兵庫県・全国との比較）



(18) 産業別人口

就業者割合を産業大分類でみると、男女ともに第3次産業就業者数の割合が最も高くなっています。また、就業者割合を産業小分類でみると、男女ともに農林業が最も高くなっています。

■表4 【令和2年（2020年）】産業大分類別人口（南あわじ市）

	産業人口	
	男性	女性
総数	12,498 人	11,239 人
第1次産業就業者数	2,838 人 (22.7%)	2,378 人 (21.2%)
第2次産業就業者数	3,451 人 (27.6%)	1,411 人 (12.6%)
第3次産業就業者数	5,692 人 (45.5%)	6,996 人 (62.3%)
分類不能の産業	517 人 (4.1%)	454 人 (4.0%)

資料：国勢調査

■表5 【令和2年（2020年）】産業小分類別人口(上位10件)（南あわじ市）

男性		女性	
農林業	2,524 人 (20.2%)	農林業	2,303 人 (20.5%)
製造業	2,235 人 (17.9%)	医療、福祉	2,104 人 (18.7%)
卸売業、小売業	1,503 人 (12.0%)	卸売業、小売業	1,756 人 (15.6%)
建設業	1,214 人 (9.7%)	製造業	1,162 人 (10.3%)
運輸業、郵便業	616 人 (4.9%)	宿泊業、飲食サービス業	867 人 (7.7%)
医療、福祉	593 人 (4.7%)	教育、学習支援業	533 人 (4.3%)
宿泊業、飲食サービス業	592 人 (4.7%)	生活関連サービス業、娯楽業	385 人 (3.1%)
サービス業(他に分類されないもの)	589 人 (4.7%)	サービス業(他に分類されないもの)	289 人 (2.3%)
公務(他に分類されるものを除く)	379 人 (3.0%)	金融業、保険業	253 人 (2.3%)
漁業	314 人 (2.5%)	建設業	249 人 (2.0%)

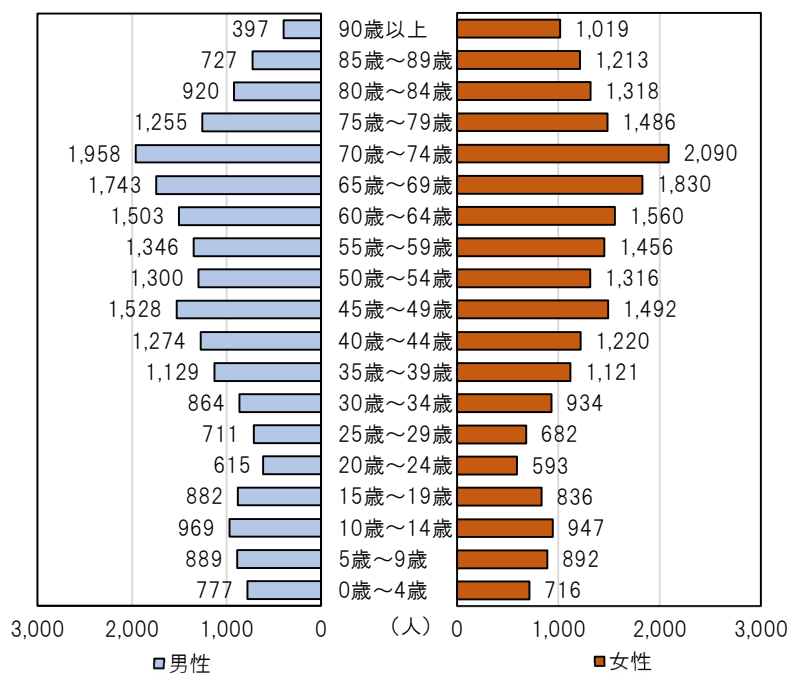
※サービス業（他に分類されないもの）：廃棄物処理業、自動車整備業、機械等修理業、政治・経済・文化団体、宗教、外国公務。

※公務（他に分類されるものを除く）：国家公務、地方公務

（６）令和２年（２０２０年）と令和２２年（２０４０年）の人口構造の比較

令和２年（２０２０年）の人口構造をみると、男女ともに団塊の世代にあたる 70～74 歳人口が多くなっています。一方、令和 22 年（2040 年）の人口構造をみると、男性は 65～69 歳、女性は 90 歳以上の人口が最も多くなっています。また、男女ともに生産年齢人口の大幅な減少が予測されます。

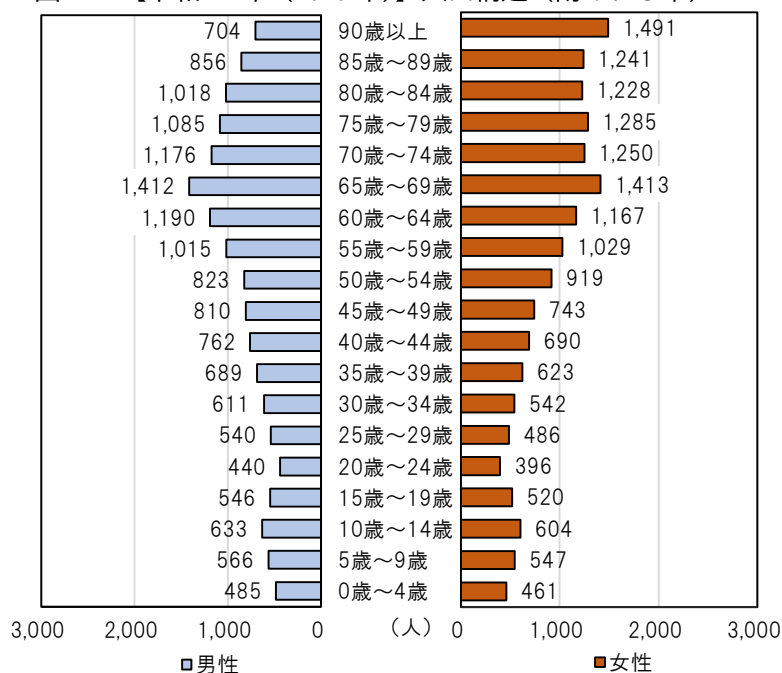
■図 11 【令和２年（２０２０年）】人口構造（南あわじ市）



※「不詳」を含まないため、合計は図１の男女別総人口と異なる。

資料：国勢調査（令和２年）

■図 12 【令和 22 年（2040 年）】人口構造（南あわじ市）

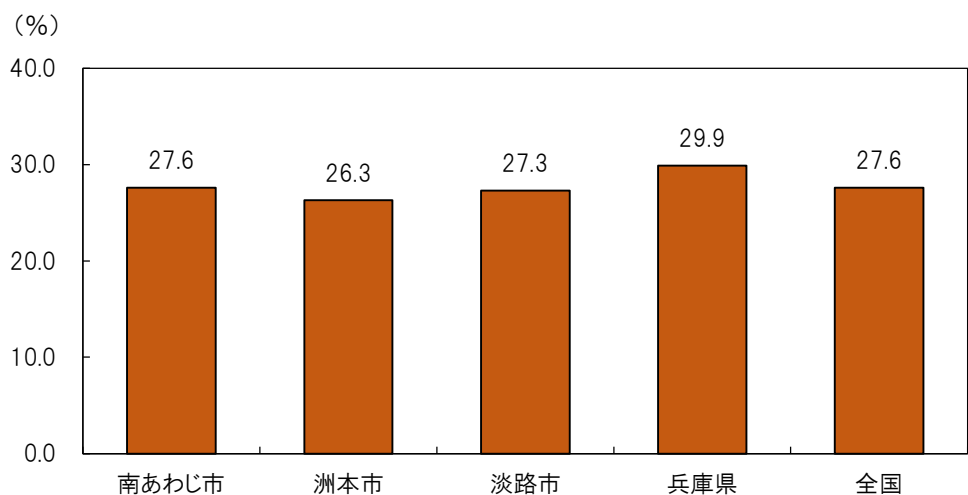


資料：国立社会保障・人口問題研究所（平成 30 年推計）

(25) 審議会等委員女性登用率

審議会等委員女性登用率は、兵庫県・全国を下回っています。

■図 38 【令和3年（2021年）】審議会等委員女性登用率（近隣市・兵庫県・全国との比較）

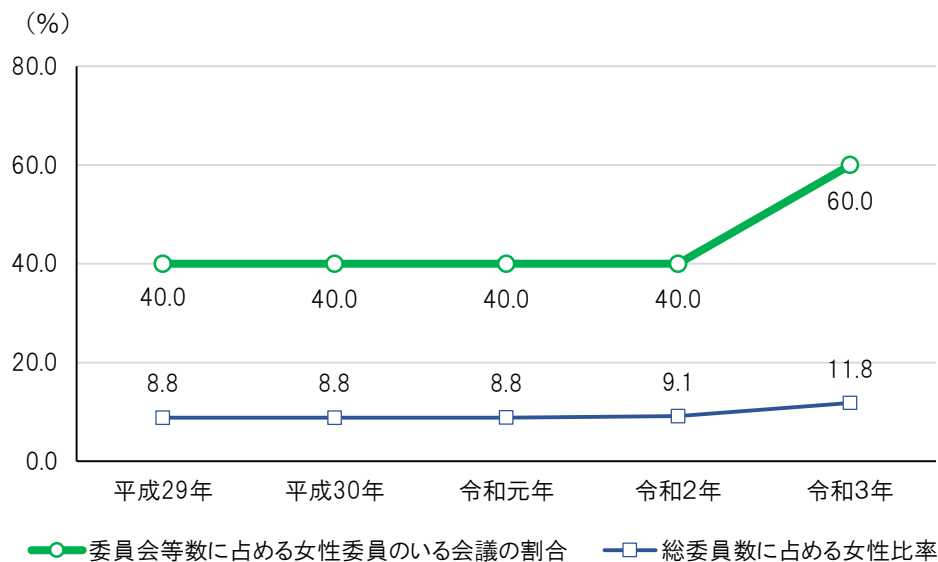


資料：市町村女性参画状況見える化マップ、都道府県別全国女性の参画マップ

(26) 委員会等（地方自治法第180条の5）に占める女性割合

地方自治法第180条の5に定められる執行機関としての委員会に占める女性割合の推移をみると、女性のいる会議の割合は令和3年に急上昇しており、総委員数に占める女性比率も令和元年以降は上昇傾向で推移しています。

■図 39 委員会等（地方自治法第180条の5）に占める女性割合の推移

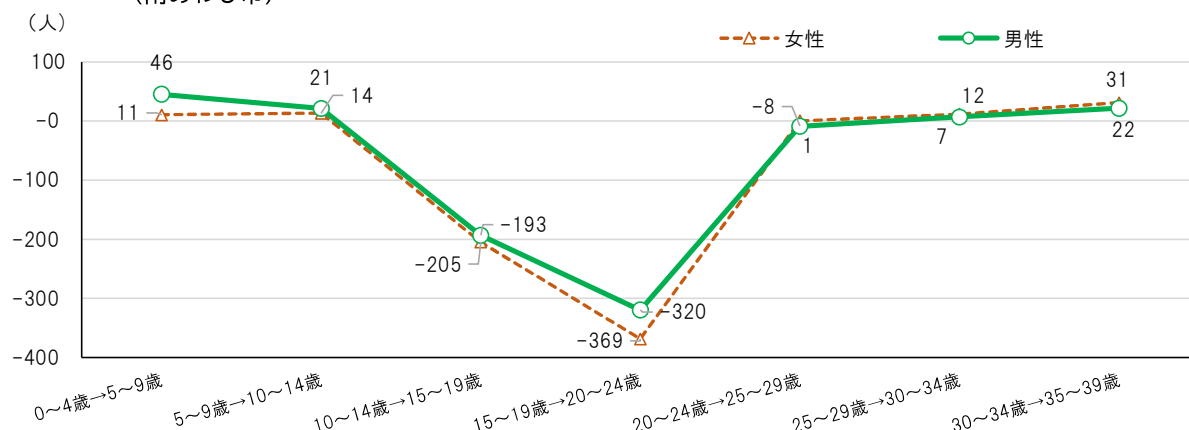


資料：南あわじ市

(3) 年齢別性別人口の変動数、若者回復率

年齢別人口の変動数をみると、男女ともに 10 歳代において転出超過の傾向がみられます。若者回復率は女性が 2.26%となっています。

■図5 【平成27年(2015年)→令和2年(2020年)】若者の年齢別(5歳区分)性別純人口の変動数(南あわじ市)



※人口の変動数とは、ある年代の人口の一定期間における人口の変動数。

例えば、ある年(平成27年(2015年))の15～19歳は、5年後(令和2年(2020年))に20～29歳に達するが、その間に変動した人口を示したのが上記のグラフ。

資料：国勢調査

■表1 【平成27年(2015年)→令和2年(2020年)】若者回復率(南あわじ市)

	男性		女性	
	10 歳代	20 歳代	10 歳代	20 歳代
平成27年(2015年) → 令和2年(2020年)	-513 人	-1 人	-574 人	13 人
若者回復率				2.26%

※10 歳代は「10～14 歳→15～19 歳」、「15～19 歳→20～24 歳」の合計、
20 歳代は「20～24 歳→25～29 歳」「25～29 歳→30～34 歳」の合計。

資料：国勢調査

【参考】若者回復率の算出方法(南あわじ市)

	男性	女性
10～14 歳→15～19 歳	-193 人	-205 人
15～19 歳→20～24 歳	-320 人	-369 人
① 10 代減少人数	-513 人	-574 人
20～24 歳→25～29 歳	-8 人	1 人
25～29 歳→30～34 歳	7 人	12 人
② 20 代増減人数	-1 人	13 人
回復率(②÷①)×(-100%)		2.26%

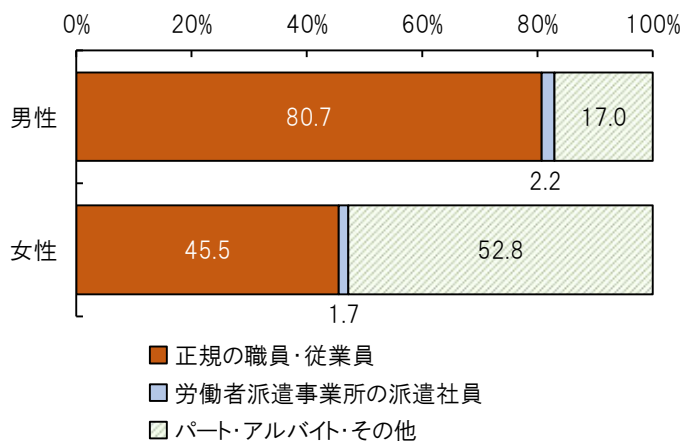
第3次南あわじ市男女共同参画計画 策定に係る基礎調査まとめ資料

令和4年9月
南あわじ市

(19) 雇用者の就業形態の割合

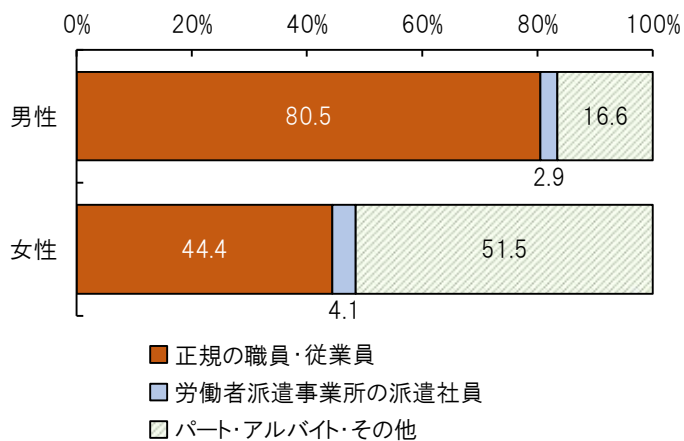
雇用者の就業形態の割合をみると、正規の職員・従業員において、男性が女性を大きく上回っています。また、南あわじ市の男女の正規の職員・従業員の割合が兵庫県を上回っています。

■図 32 【令和2年（2020年）】雇用者の就業形態（南あわじ市）



資料：国勢調査

■図 33 【令和2年（2020年）】雇用者の就業形態（兵庫県）



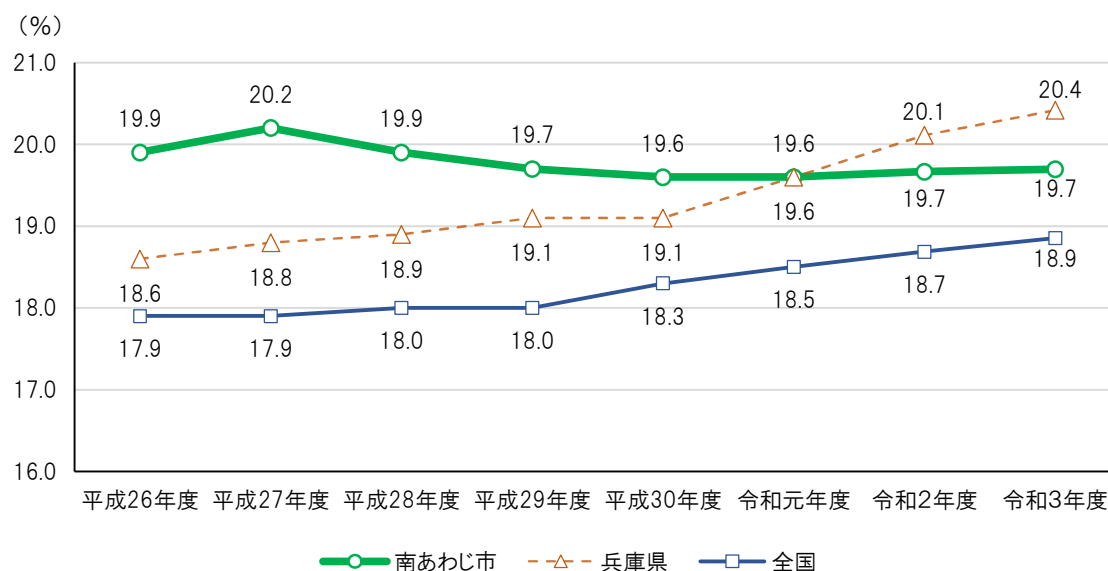
資料：国勢調査

4. 困難を抱える人等の状況

(20) 要介護認定率

要介護認定率は、兵庫県・全国がともに上昇傾向をたどる中で、南あわじ市では平成 27 年度以降、低下から横ばいで推移しています。

■図 34 要介護認定率の推移（兵庫県・全国との比較）



※令和2年度、令和3年度は介護保険事業状況報告書月報（各年度3月末）を参照。

資料：介護保険事業状況報告書年報（平成26年度～令和元年度）

(21) 生活保護率

生活保護の保護率をみると、兵庫県・全国より低い水準で推移しているものの、兵庫県・全国が低下傾向であるのに対し、本市では上昇傾向となっています。

■図 35 生活保護率の推移（兵庫県・全国との比較）



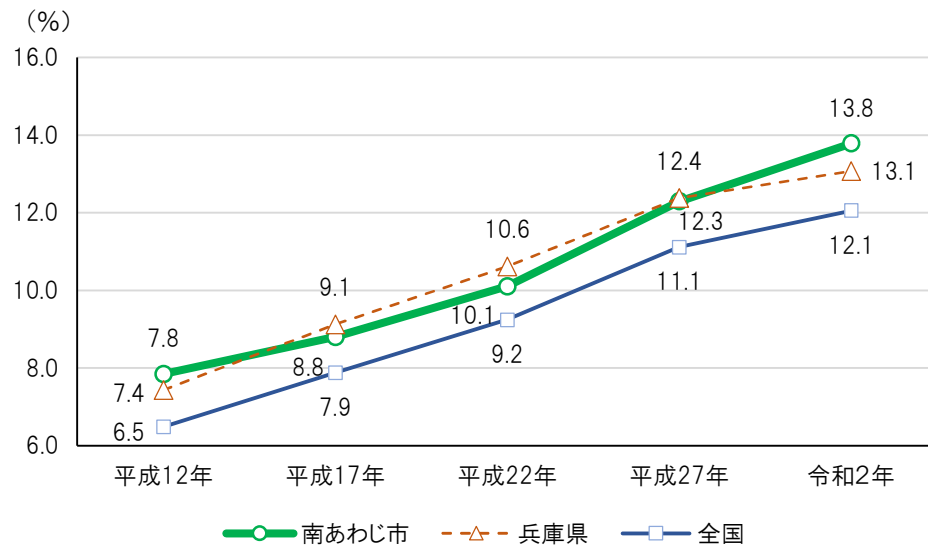
※数値は人口千人あたり %（パーミル）

資料：兵庫県社会福祉統計年報

(11) 高齢者単身世帯数の割合

高齢者（65歳以上）の単身世帯が一般世帯数に占める割合をみると、平成12年以降上昇を続けており、全国を上回る水準で推移しています。令和2年には兵庫県・全国を上回り、13.8%となっています。

■図18 一般世帯数に占める高齢単身世帯数の割合の推移（兵庫県・全国との比較）

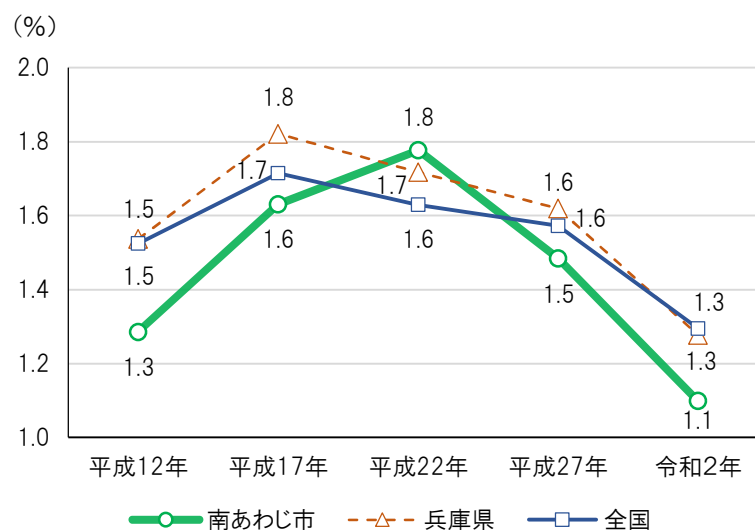


資料：国勢調査

(12) ひとり親世帯の割合

ひとり親世帯（母子世帯＋父子世帯）が一般世帯数に占める割合をみると、平成12年から平成22年にかけて増加していましたが、平成27年には減少に転じています。また、平成22年を除き兵庫県・全国より低い割合となっています。

■図19 一般世帯数に占めるひとり親世帯数の割合の推移（兵庫県・全国との比較）



資料：国勢調査

目次

1. 人口の動向	1
(1) 人口	1
(2) 合計特殊出生率	2
(3) 年齢別純移動数、若者回復率	3
(4) 転出者数	4
(5) 各年齢層の増減率の推計	5
(6) 令和2年(2020年)と令和22年(2040年)の人口構造の比較	7
(7) 年齢別人口構造	8
(8) 高齢化率	8
(9) 外国人人口の割合	9
2. 世帯の状況	10
(10) 単独世帯数と一世帯あたりの人員	10
(11) 高齢者単身世帯数の割合	11
(12) ひとり親世帯の割合	11
(13) 世帯の家族類型の割合	12
(14) 未婚率・有配偶率	13
(15) 婚姻件数・離婚件数	14
3. 労働の状況	15
(16) 年齢別労働力率の比較	15
(17) 女性の婚姻状況別就業率	17
(18) 産業別人口	19
(19) 雇用者の就業形態の割合	20
4. 困難を抱える人等の状況	21
(20) 要介護認定率	21
(21) 生活保護率	21
5. 女性の健康に関する状況	22
(22) 子宮頸がん検診、乳がん検診の割合	22
6. 政策・方針決定過程における男女共同参画の状況	23
(23) 市議会における女性議員の割合	23
(24) 審議会等(地方自治法第202条の3)に占める女性割合	23
(25) 審議会等委員女性登用率	24
(26) 委員会等(地方自治法第180条の5)に占める女性割合	24
7. 地域における男女共同参画の状況	25
(27) 自治会長における女性数・女性比率	25
(28) 地域団体等における女性役員・委員	25
(29) 消防団における男女比	26

6. 政策・方針決定過程における男女共同参画の状況

(23) 市議会における女性議員の割合

市議会の議員数に占める女性の割合は令和4年に上昇し、約2割となっています。令和3年時点では、正副議長のうち、副議長が女性となっていました。令和4年では議長、副議長ともに男性となっています。

■表6 市議会における女性議員の割合の推移（南あわじ市）

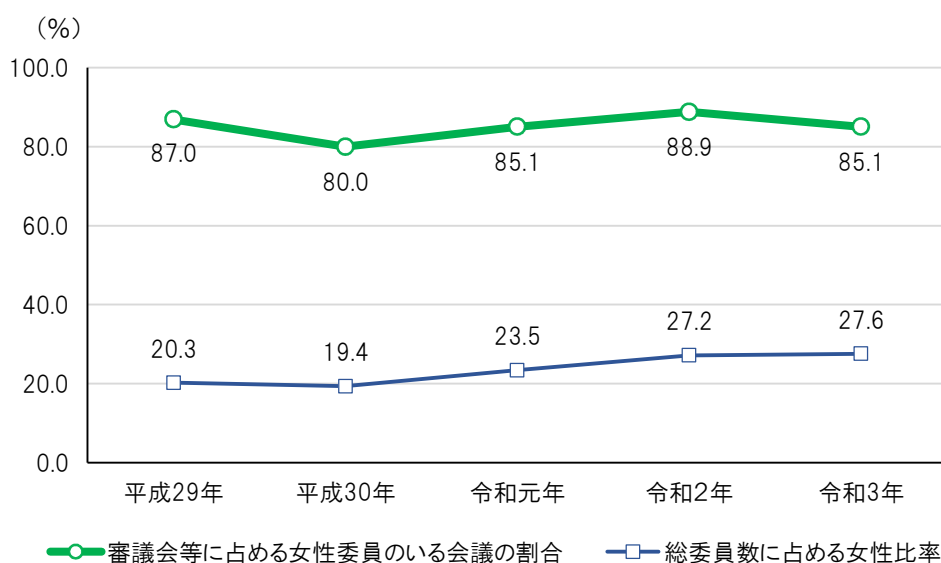
	議員数				正副議長の性別	
	定員	現員 (A)	女性議員 (B)	女性議員 の割合 (B/A)	議長	副議長
平成31年 (2020年)	18人	18人	2人	11.1%	男性	男性
令和3年 (2021年)	18人	18人	2人	11.1%	男性	女性
令和4年 (2022年)	18人	18人	4人	22.2%	男性	男性

資料：南あわじ市

(24) 審議会等（地方自治法第202条の3）に占める女性割合

地方自治法第202条の3に定められる執行機関の附属機関における審議会等に占める女性割合の推移をみると、女性のいる会議の割合は、平成30年から令和2年にかけて上昇傾向にあったものの、令和3年において低下しています。一方で総委員数に占める女性比率は平成30年以降上昇傾向で推移しています。

■図37 審議会等（地方自治法第202条の3）に占める女性割合の推移（南あわじ市）



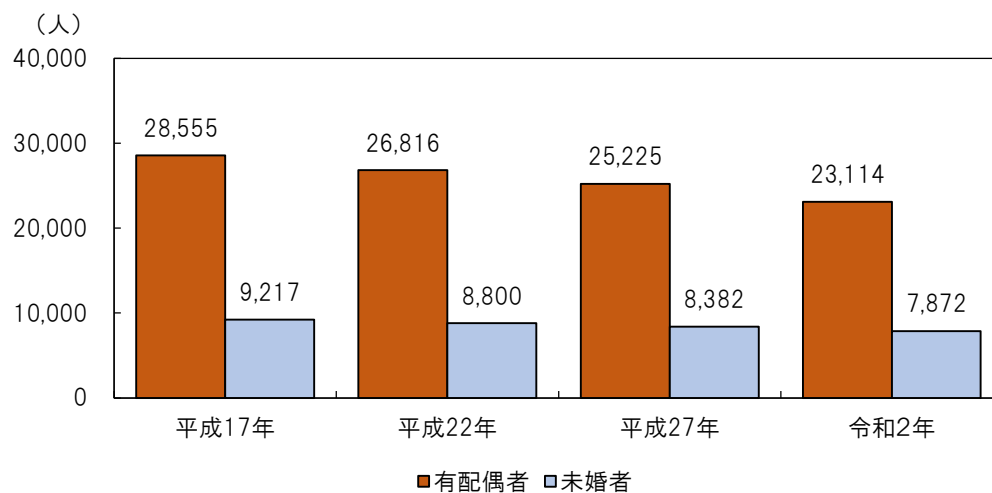
資料：南あわじ市

(14) 未婚率・有配偶率

未婚・有配偶者数はいずれも減少傾向で推移しています。

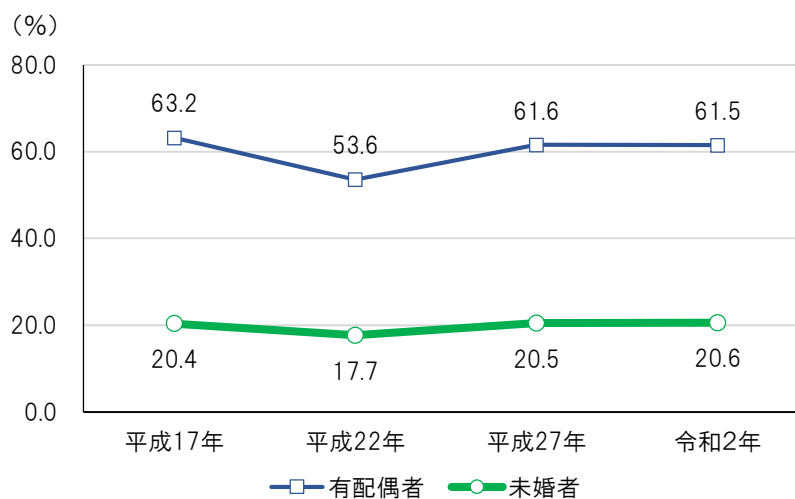
未婚率・有配偶率をみると、いずれも平成22年で低下した後に、上昇傾向で推移しています。

■図22 未婚者・有配偶者数の推移（南あわじ市）



資料：国勢調査

■図23 未婚率・有配偶率の推移（南あわじ市）



※死別・離別者を含めた総数に占める割合。

資料：国勢調査